

みんなが手をつなぐために

問い合わせ 人権・男女共同推進課 ☎9136

社会的ひきこもりと発達障害に理解を！（前編）

発達障害とは
俳優でモデルの栗原類さんが、平成28年5月、テレビ番組で発達障害であることを告白し、話題を呼びました。
「発達障害」とは、注意力に欠け、落ち着きがなく、ときに衝動的な行動をとる「ADHD」や、対人スキルや社会性に課題のある自閉症やアスペルガー症候群などを含む「自閉症スペクトラム障害」、読む・書く・計算など特定の能力の習得に難しさがある「学習障害（LD）」などの総称です。これらは、生まれつき、あるいは周産期の何らかの原因で脳の発達に損なわれ、成長とともに身に付くはずの言葉や社会性、感情のコントロールなどが未成熟、アンバランスになるために起こると考えられています。

社会的ひきこもりと発達障害の関連性
発達障害は子どもだけの問題ではありません。知的発達には問題のない大人でも、社会の中で生きる困難を体験し、6カ月以上自宅にひきこもって社会参加をしない、いわゆる「社会的

ひきこもり」が増えていきます。彼らの中には、次の症状を示すことが少なからずあります。

- ・対人恐怖症（社会的不安障害）
- ・強迫性障害（強迫観念・強迫行為）
- ・著しい不安・葛藤による家庭内暴力
- ・睡眠覚醒リズムの障害（睡眠障害）
- ・うつ状態（不安焦燥感、意欲減退、抑うつ気分など）

社会的ひきこもりと発達障害の関連性を整理すると、次の6点があげられます。

- ① ひきこもりの人は、社会性（対人スキル）や人とのコミュニケーション（会話）が小児期から未熟で、特に同世代の多人数場面では不安・緊張感を強く感じる。自分の気持ちや考えを言葉で伝えることが難しく、不適応に陥りやすい。
- ② 感情や情動のセルフコントロールが未熟なため、些細なことで気分が不安定になって落ち込んだり、無気力・不機嫌になったりしやすい。
- ③ 日常生活習慣などを自

己管理することができず、成人してからお金・書類・身の回りの私物などを計画的に処理して管理することが難しい。

- ④ 自己像が思春期以降に低下し、自分に対する見方が否定的になる。周囲からの評価に対して非常に過敏で、劣等感・被害感情を抱きやすい。
- ⑤ 自分の興味・関心のあることにはマニアックになつてのめり込むが、興味・関心のないことには無気力で飽きっぽい。
- ⑥ 非常に不安が強く、心配性であるため、失敗・挫折への恐怖が強い。自分が傷つきやすい場面や失敗しそうな状況に入ろうとしない、または逃避する。不得意なことは先延ばしにしてしまう傾向がある。

成人になってから社会的ひきこもりが問題視されて、医療・心理・福祉の現場に登場し、その際に発達障害が表面化することが多いのが現状です。

次号では、発達障がいのある人へのサポートなどをお伝えします。

※「みんなが手をつなぐために」は、市民と市職員で構成される「広報人権問題シリーズ編集委員会」が編集しています

8月は人権強調月間です

問い合わせ 人権・男女共同推進課 ☎9136

市では、人権強調月間である8月に、幅広い世代に對して人権意識を高める啓発事業を行っています。

人権強調月間 啓発キャンペーン

市内障がい者施設のハンドメイドの啓発品（せっけん、コースター）やウェットティッシュなどを配布します。

とき・ところ

【廿日市地域】

8月5日(月)17時～18時
ザ・ビッグ宮内店、テナコート、フジグランタリ

【佐伯地域】

9月28日(土)11時～17時
さいき水まつり会場（岩倉ファームパーク）

【吉和地域】

8月11日(祝)17時～18時
吉和夏まつり会場（吉和グラウンド）

【大野地域】

8月6日(火)10時～11時
ピュアークック青葉台店

【宮島地域】

8月2日(金)7時10分～8時10分 宮島棧橋前広場
※啓発品がなくなり次第、終了

人権作品の募集

人権を守り、差別を許さない考えや行動の輪を広げるため、人権作品を募集します。

入選作品は、12月7日(土)の人権フェスタで表彰します。また、入選した標語やポスター、写真などは、市役所1階市民ホールなどで展示します。

テーマ 日常生活の中で人権の尊さに関して感じたことなど

募集作品

- ・標語
- ・作文
- ・詩
- ・ポスター
- ・写真

応募資格

市内在住、在勤または在学の人

応募方法

住所、氏名、電話番号、作品部門を記入し、持参または郵送で次へ。
〒738-8501（住所不要） 廿日市市役所人権・男女共同推進課
応募締切 9月17日(火)

第24回男女共同参画市民フォーラムinはつかいち「女の本音、男の本音。」

多数の広島ローカル番組に出演するタレントの中島尚樹・井上恵津子夫妻が、本音で男女共同参画を語ります。

※手話通訳、要約筆記あり
とき 8月25日(日)10時～12時（9時30分開場）

ところ 山崎本社 みんなのあいプラザ
講師 中島尚樹さん、井上恵津子さん

定員 250人（満席になり次第、締め切り）

※前方の席を事前予約できます（抽選50席）。希望者は、8月9日(金)までに市ホームページから申し込んでください

託児 1人につき100円（8月16日(金)までに要予約）



みんなでいっしょにコミュニケーション！
—視覚障がい—

No.4 問い合わせ 障害福祉課 ☎9152

障がいがある人もない人も、全ての市民が想いや考えを伝え、理解し合うことが大切です。また、障がいがある人にとって、配慮していただく助かるコミュニケーション手段があります。

■視覚障がいの特性

視覚障がい者には、全く目の見えない人と見えにくい人がいます。見えにくいというのは、一部が欠けて見えたり、物の輪郭がはっきりせず、ぼやけて見えたりなど、実際の形とは違って見えることです。実際の色と違う色に見える障がいもあります。信号の色が分からず困っている人がいたら、前方から優しく声を掛けてください。

■白杖の役割

視覚障がい者が、白杖を使ったり、盲導犬と歩いたりしているところを見かけたことがあると思います。白杖は、視覚障がい者が一人で歩く際、物につからないように周囲の様子を探る役割があります。また、周囲の人に、視覚に障がいがあることを知らせる意味もあります。

■コミュニケーション手段

全く見えない人と見えにくい人では、コミュニケーション手段は同じではありません。全く見えない人の場合、点字や音声での情報収集によることになります。見えにくい人（弱視の人）であれば、文字を拡大して表示できる装置によって、視覚的に情報を受け取る

ことが可能です。

■盲ろう者

視覚と聴覚の両方に障がいがある人を盲ろう者といいます。コミュニケーションを取ることで、情報から孤立しがちです。触手話や指点字のひらに指で文字を書くことなどでコミュニケーションを取りますが、障がいの程度によってコミュニケーション手段はさまざまです。

今月の手話

ありがとう



左手の甲から右手を垂直に上げる

ごめんなさい



親指と人差し指で眉間をつまむようにする



手を開き、軽く下ろしながら頭を下げる